

大谷石修復これが匠の技

築80年の礼拝堂 外壁20個交換

宇都宮市特産の大谷石が使われている歴史的建造物「宇都宮聖ヨハネ教会礼拝堂」（同市桜2丁目）で、外壁や塀の修復作業が進められている。大谷石の石材加工技術者を養成する講座「大谷アカデミー」の受講生も見学。4月の開講以来、座学や実技を通じて技術を学んできた受講生は、匠の技を実地で初めて目の当たりにした。



渡辺哲夫さん（左）から修繕作業の説明を受ける受講生＝宇都宮市桜2丁目

見学の講座受講者「技術磨きたい」宇都宮

同教会は昨年度の市まちなみ景観賞の大賞に選ばれた。今月上旬に始まった修復作業は、築約80年の礼拝堂外壁の劣化した約20個の石を交換するなど今月いっぱい続く。

大谷アカデミーの11人の受講生のうち3人は15日、外壁の大谷石を外して新しいものを据え付ける一連の作業工程を見学した。

作業に携わるアカデミーの実技指導長の渡辺哲夫さん（58）が、受講生の質問を受けながら目の前で技術を披露した。愛知県犬山市の明治村に移築された帝国ホテルの復元にも携わった経験を持つ渡辺さんは「現場の作業を実際に見てもらうのが何よりの教材。後継者が育つよう、熱い思いで教えていく」

受講生の一人で栃木市の建築業片柳正志さん（40）は「大谷石の施工経験は多少あったが、アカデミーで技術を磨いて本格的に大谷石を施工できる職人になりたい」と話した。（田中正一）